

# 東京基督教大学 第3期中期計画と2021年度事業計画

2021年3月23日  
理事会・評議員会承認

中期計画（2018-2022年度）		2021年度（現中期計画4年目）		
最 重 点 項 目		「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」（コンセプト）の発信と結実		
		総合神学科の教育の充実と定員を充足するための募集活動の新たな展開		
		資金の収支の改善に向けた施策の立案と実行④		
		ポストコロナの教育と収支改善策の検討・実践		
1 ・ 教 育 ・ 学 生 支 援	1 部署横断的な組織新設	EM（エンロールメントマネジメント）体制を構築する（A）		中期計画対応番号
	2 包括的な学生生活のバランスの実現	1	新カリキュラムに向けて学生・教育支援を中心とした学務会議を整備する	1
	3 有機的な学生ポートフォリオ構築	2	教授会における学生・教育支援審議を充実する	1
	4 寮教育の本質検討と実践	3	初年次・二年次、各専攻グループの教職協働体制を整備する	1
	5 通学生への学生支援	4	教学組織の協働体制を強化する	1
	6 多様な学生ニーズに応える学修支援	ポストコロナを意識した全学生に対する統合的学修支援を実施する（A）		
	7 学生生活（経済・精神的）支援体制充実	5	学科再編後の学生像に相応しい共同体形成を検討する	7
	8 学部の学科再編（カリキュラム全体スリム化）	6	オンラインによる入学前教育を充実する	6
	9 修士課程のコース見直し（カリキュラム全体スリム化）	7	新カリキュラムでの初年次教育を充実する	11
	10 日英提供プログラムの連動性強化	8	学科再編後の学生像に相応しい行事のあり方を検討する	2
	11 学部初年次教育の充実	9	学科再編後の学生像に相応しい教会実習のあり方を検討する	7
	12 教会教職者カリキュラムの柔軟化検討	10	学修ポートフォリオを用いた小グループチャペルを実施する	7
	13 福祉専攻における全世代対応ケアワーカー・リーダー養成	11	担任制を軸とした教職協働の学修支援体制を実施する	7
	14 国キ専攻生進路の多様化に対応したカリキュラム検討	12	教会教職課程4年間の女子学生を支援する	7
	15 スタディーツアー充実	13	学科再編後の学生像に相応しい通学生支援体制を検討する	5
	16 ダブルディグリー・短期留学制度充実	14	学科再編後の学生像に相応しい寮教育を検討する	4
	17 ACTS-ESカリキュラムの日本語教育充実	15	発達障がい学生の学修支援を充実する	6・7
	18 教会音楽専攻科のカリキュラム見直し	16	サードカルチャーの背景をもつ学生の学修支援を充実する	6・7
	19 学修成果測定・評価の検討と見直し	17	ACTS-ESライティングセンターの活動を推進する	6
	20 教会教職養成課程3年制設置の検討	18	国籍を超えてお互いのニーズを理解し共同体形成を促進する	7
	21 学部の学科再編の検討	19	オンライン教育のためのFD・SDを実施する	6
	22 教員免許課程設置の検討	全学生に対する統合的学修支援を実施する（A）		
	23 研究科の通信教育課程の継続調査	20	学科再編移行期の各専攻のカリキュラムを整備する	8・10・11・13・14・21
	24 保育士資格取得特別応援コース開始	21	学科再編移行期の大学院のカリキュラムを整備する	9・12・20
	25 福祉専攻科の設置検討	22	学科再編移行期の音楽専攻科のカリキュラムを整備する	18
	23	英語トラックの学生の日本語教育を充実する	17	
	学修成果測定・評価方法を検討・実施する（B）			
	24	全学的に学生情報システムを活用する体制を整備する	3・19	

# 東京基督教大学 第3期中期計画と2021年度事業計画

2021年3月23日  
理事会・評議員会承認

		25 ハイブリッド授業のための体制・環境を整備する	6
		26 授業改善に資する授業評価アンケートを実施する	19
		定員増加のための施策を検討・実施する (C)	
		27 教員免許課程・資格取得コースの実施時期を検討する	22・24
		28 オンライン受講できる履修証明プログラムを準備する	23
		29 オンラインで学位取得できる大学院の準備をする	9・23
2 学生募集	1 訪問目的の明確化	1 オンラインと対面の両面で教会訪問を行う	
	2 国外：教会・宣教団体等とのネットワーク拡大	2 海外の宣教団体、教会、在外卒業生との関係を深化、拡大させる	
	3 国内：ネットワーク拡大	3 支援団体、協力団体、卒業生との関係を深化、拡大させる	
	4 中高生・青年宣教団体との包括協定先増加	4 新規包括協定締結先をリストし関係性を構築する	
	5 オープンキャンパス参加者数増加	5 キャンパスとオンライン両方のオープンキャンパスを実施する	
	6 資料請求者数増加	6 ウェブサイトでの広報活動を継続的に改善強化する	
	7 入学・収容定員充足	7 入学者定員を充たし、収容定員充足を目指す	
	8 アドミッションポリシーに基づく入試改革	8 入試制度の適切性を検証し必要に応じて改善する	
	9 全教職員による教会訪問	9 オンラインと対面の両面での訪問に取り組む	
	10 キリスト教学校との共同取り組み推進	10 キリスト教学校との共同取り組みを推進強化する	
	11 受験生目線のコミュニケーション	11 SNS等を通じて受験生の益となるコミュニケーションを行う	
	12 多様（留学生・社会人等）な志願者を想定した募集活動	12 ウェブサイトでの広報活動を継続的に改善強化する	
	13 人の成長に焦点を当てた広報活動	13 動画・紙媒体で学生の成長する姿を訴求する	
	14 保護者の説得、阻害要因（進路・経済）を解決する広報活動	14 各調査結果を基に広報活動を行う	
3 財務・キャンパス整備	1 教育・学生支援充実のための改革実施	資金の収支の改善に向けた施策の立案と実行④ 1 均衡到達年度2027年度。2021年度資金収支差額マイナス1億3,200万円。教育活動資金収支差額マイナス2億1,500万円。	
	2 学納金収入増加	2 学納金収入1億9,100万円（現員185名分）を目指す。オンラインによる科目等履修・聴講生の開拓をする	
	3 定員増の認可申請	3 資金の収支均衡到達目標年度と学生数シミュレーションの見直しにより中期計画当初の2022年度申請は見送り、改めて計画する	
	4 寄付金収入増	4 寄付金収入9,000万円を目指す	
	5 適切な人件費・人件費依存率維持	5 「第二次神プロ」財務計画により、215.4%を目安とする	
	6 人件費の見直し検討	6 賞与は予算編成方針で年間1.5か月分とした。中長期的な人事計画に伴い人件費の検討を継続する	
	7 奨学金支出の再検討	7 奨学金の3,000万円以下の支出（持出し分）を実行する	
	8 資金の収支均衡実現		
	9 付随事業・収益事業の検討	8 付随事業及び将来の収益事業の検討を継続する	

# 東京基督教大学 第3期中期計画と2021年度事業計画

2021年3月23日  
理事会・評議員会承認

	10 施設・設備の計画的な補修	9 大規模修繕計画を実状に照らして精査する
	11 学修のためのウェブ・システム拡充	10 (1. 教育・学生支援 28参照)
4 ガバナンスとマネジメント	1 あるべき教員・職員・理事像検討し明文化	1 コンセプト・人間像の浸透状況を踏まえて、教職員像・理事像の明文化検討を継続する
	2 教職協働による学生支援体制構築	2 教職協働による適切な学生支援を実施する。新カリキュラム開始に合わせ、学生へのトータルなサポートを実現することのできる事務体制のあり方について検討する
	3 PDCAサイクルの有効化	3 PDCAサイクルの有効化に努めるとともに、より相応しいあり方の検討を継続する
	4 内部質保証システム確立	4 内部質保証小委員会の活動を推進する
	5 意思決定機関のシンプル・迅速化	5 常任理事会を経営状況の常時監視機関と位置付ける。常時管理のあり方を検討し、実行する。リアルタイムの財政状況を常任理事会に報告する体制を整備する
		6 大学運営会議（新型コロナ対策本部を兼ねる）による意思決定の迅速化を進める
	6 情報共有体制整備	7 会議決定事項の積極的な情報共有を継続するとともに、情報共有ルールを明確化し、共有しやすいシステム整備を推進する
	7 「コンセプト」実質化	8 常任理事会と大学運営会議の責任の下、神の国に仕えるプロジェクトの推進を通じて、「コンセプト」の実質化を目指す
	8 中期計画、神の国に仕えるプロジェクト、30周年行事推進体制整備	9 中期計画は大学運営会議が、プロジェクトは責任主体を（経営：理事会、運営：大学運営会議）とし、推進する
	9 理事長・学長・学部長等役職者の職務権限明確化	10 理事長・学長・学部長等役職者の職務権限の明文化の検討を継続する
	10 キリスト教全人格教育に全学を挙げて関わるプログラム実施	11 新カリキュラム及びコロナ禍におけるキリスト教全人格教育について検討するプログラムを実施する
	11 会議の見直し	12 会議の活性化を目指し、会議についての研修を行う
	12 教授会の役割の見直し	13 理事会との関係の明確化を含め、教授会審議内容の見直しを継続し、教育・学生支援を中心に取り組めるようにする
	13 FD・SDの充実	14 コロナ禍への対応を踏まえ、実施計画に基づきFD・SDを実施する
	14 理事会機能向上	15 常任理事会を財政状況等の常時監視機関と位置づけ、相当頻度で開催するとともに、理事会から常任理事会、常任理事会から学内理事への委任事項を明確化する
	15 監査制度の充実	16 監事との懇談会を実施する。私立学校法改正による監事の役割の変更を踏まえ、監事補佐体制を検討する
		17 学園顧問制度のあり方について検討を行う
16 有効な情報共有	18 情報共有ルールの明確化を含めた総合的な検討を継続する	
17 大学認証評価準備	19 2022年度の認証評価に向け、大学運営会議の責任の下、自己点検・自己評価委員会及び内部質保証小委員会の連携により、自己点検評価活動を行う	
5 ガバナンス	1 外部資金の継続的な導入	1 ①専任教員の2割の外部研究費への申請を行う ②研究支援センターによる外部研究費関連の情報共有、申請の促進を行う

# 東京基督教大学 第3期中期計画と2021年度事業計画

2021年3月23日  
理事会・評議員会承認

研究	2	学内研究体制強化	2	①研究支援センターを中心とした研究支援体制の充実を図る ②研究支援センター専用ウェブサイトの開設と情報共有の促進する
	3	教会に寄与する研究推進と成果の公開	3	①キリスト教葬制文化研究会を継続し、キリスト教葬儀に関わる人材育成プログラムのテキストを刊行する（国際宣教センター） ②神の国研究プロジェクトを継続する 信徒の神学研究会、キリスト教と福祉と福祉研究会（共立基督教研究所）、賀川豊彦シンポジウム（公共福祉研究センター）を通して議論を深める
	4	国内外の神学教育・宣教教育機関との連携と研究交流促進	4	日本宣教会、アジア宣教会、ATA加盟校の宣教研究所、その他との情報交換・交流を促進する
	5	協同研究、シンポジウム・学会の実施・受入れ	5	研究支援センターを中心に共同研究等の促進を図る
	6	建学の精神に関わる出版検討		
	7	信徒神学の研究	6	国際宣教センター・共立基督教研究所の合同により研究会を行う
	6 ・教会と地域と共に	1	「教会や地域との関わりシステム」構築	1
2-1		研究成果の共有・還元		（5. 研究 3参照）
2-2		様々な教育機関と交流・連携		（5. 研究 4参照）
3-1		地域社会の福祉活動向上	2	介護福祉士実務者研修を実施する
3-2		文化芸術振興	3	コロナ禍の中で、地域に開かれたコンサートと公開講座をどのように運営すればよいかを模索していく。大学と連携を取りつつ、2020年度開催できなかった世界的なオルガニストのコンサートや公開講座が開催可能となった際に必要な準備を進めていく
3-3		国際交流寄与	4	市民団体等と協力し地域の国際交流を推進する
4-1		TCU支援会活動充実	5	コロナ禍の制限の中でもICTを生かし、全国各地のTCU支援会との相互支援活動を推進する
4-2		支援教会・支援団体拡大	6	コロナ禍の制限の中でもICTを生かし、支援団体・教会との交流を深め、相互支援活動を推進する
5		教会との連携	7	同窓会・支援団体と協力して教会へ働きかける
6		ケアチャーチ関東圏外へ拡大、教会の福祉への取組支援	8	ケアチャーチを実施し、教会の福祉への関心を広める
7		各分野での継続教育提供		国際キリスト教学分野において、継続教育を実施する
8		クロスメディアによる継続教育提供	9	（1. 教育・学生支援 28 29参照）
9		履修証明プログラムの充実・発展	10	学科再編に伴い提供内容を見直す。大学院科目も含めオンラインでのプログラムの提供を検討する。また広報のやり方も改善する
10		施設の有効利用、関係団体等への貸し出し	11	貸出については、コロナウイルスを鑑み、大学の方針に沿って対応する
11	他のキリスト教教育機関との連携し、キリスト教教育の進展に協力		（2. 学生募集 2参照）	
12	学生・教職員：地域社会との積極的な交流・協力・取り組み評価			
13	学生・教職員：学外ボランティア活動推進	12	学内ボランティア推進を継続する	
		13	SDG s の取り組み検討を継続する	